

主任班グループ別研修

研究テーマ『園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～』

主任班は、それぞれの立場や園の実情に合わせた研究の視点を窓口として研修に取り組んでいけるよう、主任班1・主任班2に分かれて研修を行った。各グループ、視点に沿った取組や自己課題について話し合い、協議が深まった。また、助言の各班の園長からは主任の役割についての御指導をいただき、意識を高めることができた。

<グループ協議 主任班1 A～Fグループ>

- ① 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Aグループ）
 - ・複式学級のクラス運営や環境の設定方法、異年齢との関わり、指導計画作成についてなど、各園の実情や課題で挙げられたことを基に、実践してきたことを伝え合った。
- ② 発達支援教育の理解と保育の充実（Bグループ）
 - ・支援が必要な子への配慮を踏まえたクラス運営について考えた。
 - ・個別の指導計画は、学期ごとに要点を絞って記入するようにし、書き方や支援方法について、若手職員へのアドバイスやフォローをしていくことが大切であることが共通理解できた。
- ③ 「幼児期に育てたい力」、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Cグループ）
 - ・写真を用いた研修を行い、「10の姿」に沿って支援方法や子供の育ちについて研修を進めている方法が紹介された。園内公開保育後の遊びの経過を追い、子供の育ちや課題について話し合う機会をつくることも一つの方法として検討していくことも考えとして挙げられた。
- ④ 幼小の円滑な接続（Dグループ）
 - ・幼稚園と小学校で交流を行う時は、事前・事後の打ち合わせを担当職員同士で行い、活動の目的や方向性について職員が意識することが大切であることが挙げられた。
- ⑤ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Eグループ）
 - ・時間外削減のため、優先順位をつけ効率よく仕事を進める。会議は勤務時間内に行い情報を可視化し、職員で共通理解をするなど園で実践していることについて協議した。
- ⑥ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Fグループ）
 - ・仕事の内容や時間の使い方などを見直したり効率化を考えたりし、働きやすい環境づくりについて協議した。



主任班1 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・先日の大雨により、市内の地域や幼稚園においても被害を受けた場所は多かった。いろいろな園での実情を知り、実際に災害対応の経験を積み重ねることで、危機管理対応のスキルを高めることができる。また、園や園周辺の地域の実情をよく理解した上での対応が求められる。
- ・ストレスを抱え込まないようにするために、その場から離れ、気分転換をすると冷静な支援や指導ができる。ストレスを解消するには、①アロマ効果により気分転換をする、②長く息を吐く呼吸法で気持ちを落ち着かせる、③大声を出す、④子供と一緒に新聞紙を破って遊ぶなどの方法が効果的である。
- ・よりよい保育の推進者として最前線で仕事をしていくことや、よりよい教員となるための職員指導、園長の園経営の補佐をすることが、主任の役割である。園運営をより円滑にするために、抱えている課題を園長に伝え、一緒に考える関係性になることが大切である。

<グループ協議 主任班2 G~Lグループ>

- ① 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Gグループ）
 - ・人との関わりを豊かにするための手立てを考えていく。地域や近隣の園や学校との交流を、園の実態に合わせて工夫をしていく。以上のことが次回への課題として挙げられた。
 - ・職員一人にかかる負担が大きいことや、園児が大人への依頼心が強くなる傾向にあるなど、少人数ならではの課題が挙げられた。
- ② 少人数園、複式学級に特化した教育課程の編成（Hグループ）
 - ・少人数の集団生活では、協働性やコミュニケーション力など育ちにくいいため、どのような方法があるか探っていきたい。
 - ・次回は、複式学級での環境設定の仕方についてや、どんな活動を行ったかを話し合いたい。
- ③ 発達支援教育の理解と保育の充実（Iグループ）
 - ・職員数が多いのは、一人一人を丁寧に見ていける良さはあるが、共通理解が難しい。次回は、実践した支援方法や職員間での共通理解の仕方について、成果や課題などの情報交換を行う。
- ④ 「幼児期に育てたい力」、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」の園内研修への活用（Jグループ）
 - ・職員指導では、一人一人の個性を見つける力をつけ、担任の困り感や考えを引き出す声の掛け方や伝え方を学んでいきたい。
 - ・園内研修で、保育計画や環境について打ち合わせ後、10の姿に照らし合わせた話し合いをしていきたい。
- ⑤ 家庭への発信の仕方や保護者対応（Kグループ）
 - ・保護者との信頼関係を築くため、子供のことばかりではなく、保護者個人への声掛けを増やしていくことを共有した。
 - ・外国籍の家庭への対応として、伝わる、分かりやすい手紙作成を意識していく。
- ⑥ 家庭への発信の仕方や保護者対応（Lグループ）
 - ・園児数の減少や、支援が必要な園児の増加など、実情が変わってきている中で、その年の実態に合わせた柔軟な対応が大切であることを共通理解した。



主任班2 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・6月上旬にあった大雨のような非常時には、主任として園長と連携をし、安全な対応をすることが大切である。いざという時のために園長に頼るだけでなく、もし、自分だったら最善策は何であるかをシュミレーションしておくことで、適切な判断力を身につけることができる。
- ・教員免許更新制の発展的解消により、研修履歴を活用し、対話に基づく受講が奨励されるようになった。幼児教育研究部研修会が、履歴として反映される実りのある研修となるよう、積極的に研修に参加し、自己の資質能力の向上に努めてほしい。
- ・主任としてコミュニケーション力が大切である。コミュニケーション力を向上させることで①周りの人（職場の同僚、園児、保護者、地域の方、業者の方など）との信頼関係の向上、②情報共有の円滑化、③ストレス解消、④チームワークの向上などが得られる。日々の生活の中で意識していくとよい。